

「冬の野鳥観察会」の報告

「野生動物救護の会」の「冬の野鳥観察会」が1月28日（日）、自然環境保全センター（自然観察園）とその周辺（リハビリセンターの池）で行われた。この時期はシベリアなどの寒い国から飛来する冬鳥が見られ、冬鳥の野鳥観察にはベストシーズンです。

朝9時30分に自然環境保全センター本館前に集合して、参加者は11名（会員3、一般8）で、講師（坂本 堅五氏（元（公財）日本鳥類保護連盟 調査室長））の案内で観察会は開始した。この観察会のコースには林や藪、小川・沼や池などがあり、それぞれ違った生息場所の野鳥が短時間で観察できる合理的なコースです。

はじめに、講師から野鳥の見分け方・双眼鏡の使い方を学び、その後、コースに出て、散策しながら、みんなで鳥を探し、見つけた鳥を双眼鏡を使って観察し、本館前に戻って最後に、みんなで見た鳥の「鳥合わせ」をおこなった。観察会は12時30分に無事に終了した。

この日は曇りだったが、冬は木々に葉がなく野鳥を見つけやすいうえ、鳥をみんなで探して見たので、30種とたくさんの野鳥を見ることが出来た。そのうち冬鳥は10種も見ることが出来た上、目当てのルリビタキとトラツグミをまづかで見ることが出来た。また、野鳥には「山野の鳥」と「水辺の鳥」がいるが、今回の観察会ではその両方の鳥を見ることができた。見た鳥については講師がその鳥の名前や特徴などをその場で一部写真を使って教えてくれたので、野鳥について学ぶこともできる初心向けの野鳥観察会でもあったが、参加者に子どもがいなかったのが残念であった。

小野

観察できた鳥（30種）：アオジ、イカル、ウグイス、エナガ、カシラダカ、カワラヒワ、ガビチョウ、カルガモ、キセキレイ、コガモ、コゲラ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズメ、ツグミ、トビ、トラツグミ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ホオジロ、マガモ、メジロ、モズ、ヤマガラ、リュウキュウサンショウクイ（留鳥）、ルリビタキ _____：冬鳥

観察会のコース 本館前→自然観察園→リハビリセンターの池→本館前



観察会の風景



野鳥の見分け方・双眼鏡の使い方 説明



林で「山野の鳥」を観察



藪で「山野の鳥」を観察



小川・沼で「水辺の鳥」を観察



池で「水辺の鳥」を観察



鳥合わせ